

2024. 6. 3

令和 6 年笛吹市議会第 2 回定例会の告示に伴う
記者会見質疑応答（要約）

■記者

境川地区内の河川が崩れたということですが、どのような状況になっているのか、何mに渡って被害が出ているかなど具体的な状況や数字、原因などが分かれば教えてください。

■財政課長

場所は境川自転車競技場から約 0.5 k m 南へ行ったところの普通河川です。
約 50m に渡り護岸壁が川幅を塞ぐように倒壊している箇所があり、原因については不明です。

■市長

民家に近い場所ではないのですが、地元の方からの要望もあり、更に護岸の亀裂や倒壊及び民有地の崩落を防ぐため、早急に対応することとしました。実際に現場を見てきましたが、50m に渡る護岸壁の復旧工事が必要となりますので、相当の費用を要します。

■記者

川中島合戦絵巻の件ですが、今回、武田信玄公役に小堺一幾さん、上杉謙信役に関根勉さんの 2 人を起用した理由をお伺いします。

■市長

昨年は角田信朗さんに出演していただきました。
今年は市制施行 20 周年記念ということで、計画当初から信玄公だけではなく、謙信公にも光を当てて人選することとし、武田信玄公及び上杉謙信公の双方を著名人に演じていただくことにしました。
昨年は少し勇ましいイメージで行いましたが、今年は笛吹市が目指す「ハートフルタウン笛吹」のやさしいイメージに合致するお二人を選ばせていただきました。

■記者

川中島合戦絵巻のイベントの概要やどのようところが見所なのかなど教えてください。

■副市長

このイベントの始まりは、合併前の石和町時代からになります。石和町に「川中島」という地名があるので、その地名にちなみ、あの川中島合戦をここでもやってみてはどうかということで始めたのがきっかけです。この「川中島合戦絵巻」と「夏の鵜飼」については手探りで始めたイベントですが、回を重ねるにつれ今ではそれなりの形になってきたと思っています。

■市長

川中島合戦絵巻は、武田信玄公と上杉謙信公の対決を再現してみようということで始めたイベントです。

山形県米沢市でも「米沢上杉まつり」というイベントを行っており、2 年ほど前に見に行きましたが、米沢市も河川敷で行っています。そういった縁もあり、米沢の鉄砲隊の方々には本市の川中島合戦絵巻に以前から参加いただいています。

■記者

今まで川中島合戦絵巻を拝見したことがないのですが、具体的にどのようなことをされ、戦う様子を見せるのか伺います。

■市長

基本的には石和の市部通りをそれぞれの軍が歩くのですが、武田軍は石和北小学校から、上杉軍は石和南小学校から行列になって歩きます。沿道には観客が人だかりになって両軍に声援を送り、その中をそれぞれの軍が入場します。

河川敷の舞台では、三献の儀を史実に基づいて行いますので、三献の儀の演目はとても見ものです。また、米沢の鉄砲隊が火縄銃の鉄砲を使用した演目もすごく迫力がありますし、2 年前から運動会形式で綱引きや大玉転がしなどの競技を取り入れて行っており、皆さんすごく楽しく参加しています。

今回の信玄公と謙信公を演じるお二人は非常にトークが上手な方々なので、いろいろな演出を仕掛けてみようと思っています。

11 月 4 日には、是非お越しください。

■記者

議案の中にある専決処分の報告の中に、市営住宅みさか桃源郷公園団地の電気温水器不具合に起因する損害賠償の額の決定及び和解についてとありますが、これはどのような内容のものなのか教えてください。

■総務部長

こちらは、市営住宅みさか桃源郷公園団地の一室で電気温水器の減圧弁の故障により、水が止まらずに流れたため、電気温水器も稼働し続け電気料も高騰しました。電気温水器は市で用意した備品ですので、当然、市に責任があることから、水道料については、減免措置を行い、電気料については、高騰分を市で負担させていただくことになりました。

損害賠償の決定及び和解については、本来であれば議会の議決に付すべきものとなりますが、地方自治法において軽易な事項については議決案件とせず、事前に専決処分できることとしているため、報告のみの案件となります。

■記者

補正予算の中で市制施行 20 周年記念事業として、ピアニストの方を呼んでコンサートを開催となっていますが、このアレクサンダー・ロマノフスキーという方はどのような人物なのでしょう。

■市長

とても有名なピアニストの方で、東京にあるコンサルタント会社を通じてコンサートを開催していただけることになりました。公共団体のコンサルタントを行っている会社であり、笛吹市が市制施行 20 周年記念ということで、今回、そのピアニストの方をお呼びして下さるというお話をいただいた次第です。

■財政課長

ピアニストの方の出身地はウクライナになります。

ウラジミール・クライネフ国際ピアノコンクールの芸術監督を努めながら、若いピアニストの才能を発掘し支援するコンクールなどを開催している方で、ニューヨーク・タイムズなどからも賞賛を受けている方です。

■記者

多目的芝生グラウンドに代わる既存の施設の芝生化というのは、具体的にはいつ頃から始まるのかお伺いします。

■市長

まだ具体的には決まっています。

■記者

いくつかある施設の中で、順次、検討していくということでしょうか。

■市長

まだそこまでの検討段階にも入っていません。

■記者

まずは全体的な計画を作るところから始めるということでしょうか。

■市長

そのとおりです。

いずれにしても、既存のグラウンドの活用を中心に検討していきますが、新設を考えていけないということではありません。

■記者

スケジュールとしては来年度以降ということになるのでしょうか。

■市長

計画策定は年内を目途とし、来年から動き出すというイメージです。

■記者

川中島合戦絵巻について確認ですが、一般公募は7月1日からよろしいでしょうか。また、ネットで何人ぐらいの参加者を見込んでいますか。

■観光物産連盟事務局長

参加者は総勢770名を最大として募集をかける予定です。

スタッフを合わせますと総勢900人が当日河川敷で合戦を行うという予定で考えています。スタッフなど合わせて900人、一般募集は770人を最大としています。

■記者

青楓美術館のことを教えてください。

青楓美術館個別施設計画は、署名活動などいろいろあり、計画を見直すという話になったと思います。

1点目として、市長としてなかなか柔軟な対応だと思いますが、なぜ一度決められた計画を見直そうと決断をされたのか、また、その理由をお聞かせください。

2点目は、今後検討委員会を立ち上げるということですが、この検討委員会にどのような役割を持ってもらうのか、出された意見をどの程度次の政策に生かしていくのか、その辺のお考えもお聞かせください。

■市長

見直すこととしたのは、基本的に市民の皆さんのお声を聞いたということです。

青楓美術館の件につきましては、笛吹市初代の荻野市長の時にも話がありました。当時は、閉館にはせず簡単な改修を行った経緯があります。

今回も建物の老朽化等の問題もあり、青楓美術館の個別施設計画について協議してまいりましたが、再度、計画を見直すことになったわけです。

私が就任してから、いろいろなところで特別展のために青楓作品を貸してくださいというお話をいただきます。渋谷区松濤美術館や練馬区立美術館、新宿区立漱石山房記念館という立派な美術館からお声がかかり、特別展をやっていたということもありますので、もっと青楓作品を世に出していきたいと考えています。

今回、青楓美術館だけがクローズアップされてしまいましたが、他にも市内には3つの文化施設がありますが、政策的な見地を含め、将来を見据えた望ましい文化施設の在り方について、検討委員会を立ち上げて話し合っていきたいと考えています。検討委員会をいつ行うか、また、構成メンバー等についてもまだ決まっていない状況です。

■政策課長

現在、青楓美術館の件による文化施設のあり方に関する検討委員会を立ち上げるということについては、まだメンバーも決まっていますが、今年度早い段階でメンバーを選定し、要綱を策定しながら検討を進めていきたいと考えています。

以上